

## 令和5年度 第3回七戸町総合戦略審議会 議事概要

日 時 令和6年1月24日(水) 午前10時00分～午前11時10分  
場 所 七戸町役場 2階 第1・2会議室  
出席者 JA十和田おいらせ七戸支店長(山本氏)、  
JAゆうき青森天間林営農センター長(福村氏)、  
七戸町商工会事務局長(小山氏)、  
七戸町天間林商工会事務局専門員(築田氏)、  
上北地域県民局地域連携部地域支援チームリーダー(杉山氏)、  
青森県立七戸高等学校長(森田氏)、  
みちのく銀行七戸支店長(鎌田氏)、  
青森銀行七戸中央支店長(久慈氏)、  
野辺地公共職業安定所長(今氏)、  
デーリー東北新聞社十和田総局七戸分局(向屋敷氏)、  
東日本電信電話株式会社八戸営業担当部長(奈良氏)  
事務局(企画調整課:課長、山本)

### 1 開会(企画調整課 山本)

### 2 会長あいさつ

委員の皆様おはようございます。会長の山本です。

本年度第3回の実施の七戸町総合戦略審議会を開催するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しいところ、本会議にご出席くださいますと誠にありがとうございます。心から申し上げます。

さて、前回の第2回審議会では、まち・ひと・しごと創生第2期七戸町総合戦略改訂案の審議をしていただきまして、委員の皆様から、一定のご理解をいただけたものというふうに承知してございます。今回提案いたします資料は事前に送付されて、委員の皆さんにおかれましては持参されているかと思っておりますけれども、前回の審議会を経て、文言や表現に一部変更を加えた、今のところ最終原案となる予定でございますので、変更点を中心に説明を行いながら会議を進めていきたいというふうに思っております。また、時間が許す限りですけれども、委員の皆さんにおかれましては、各分野の専門家というようなことでございますので、この次期総合戦略を実践するにあたって、各分野からの先進事例、あるいは七戸町への提案・提言等々ですね、委員の皆さんから一言ずついただきたいなというふうなことを考えてございます。こういったことをお願いして、開催の挨拶いたします。本日はよろしく申し上げます。

### 3 議長選任

事務局：七戸町総合戦略審議会設置要綱により、会長が議長となるとありますので、会長であります十和田おいらせ農協七戸支店長の山本様より進行をお願いします。

### 4 議案審議

(1) 『デジタル田園都市国家構想の実現に向けた まち・ひと・しごと創生 七戸町総合戦略の改定案について』について

(事務局説明)

○『デジタル田園都市国家構想の実現に向けた まち・ひと・しごと創生七戸町総合戦略(案)』に基づき説明。

●令和5年12月13日開催の総合戦略審議会で提示した案からの変更点及び第2期総合戦略からの変更点を中心に説明。

●資料中の黄色で着色した部分は第2期総合戦略から追加・改定した主な部分、赤字に着色している部分は12月に本審議会に提示した案から、改正した部分

◎政策分野1 七戸町に経済効果をもたらすしごと・雇用を創出する

・政策分野1-1 農家等の所得向上の推進

林業についての取組を追加

AI・ICT等を活用したスマート農林課の推進

再生可能エネルギーを活用した農業生産体制の推進

・政策分野1-2 新規就農者の増加

最新技術を使ったスマート農業の取組み

・政策分野1-3 安定した雇用の確保と安心して働ける環境の整備

働く場の確保のための奨励措置

テレワークやワーケーションなどの働き方に対応できる環境の整備

・政策面1-4 道の駅を拠点とした地域産業の振興

七戸ならではのオリジナル商品や飲食メニューの開発

DX、ウィズコロナアフターコロナ、カーボンニュートラルなど、急速に変化する時代に対応するための地域全体で稼ぐ仕組み作り

◎政策分野2 七戸町の住民の幸せを守り、住みたいという希望をかなえる

・政策分野2-1 居住環境の整備と移住定住の推進

プロモーション活動をインターネットやSNSを中心に展開する

空き家、空き地の利活用を町内の事業所と連携しながら推進

・政策分野2-2 関係人口の拡大

SNSを通じて地域の魅力を町外に積極的に伝える

地域おこし協力隊を募集採用してこのSNSを通じた情報発信を予定している

◎政策分野3 若い世代の結婚をかなえ、出産・子育てしやすい環境を整える

・政策分野3-1 結婚希望者のサポート強化

県と共同で運営する、青森出会いサポートセンターと連携しながら結婚を推進

・政策分野3-2 若い世代の出産・子育てにかかる経済的支援

各種申請書等のオンライン化

・政策分野3-3 教育環境の充実による地域ぐるみの子育て支援

GIGAスクール構想に関連して学習環境を端末が使えるような学習環境、学校施設の整備と端末の利用

地域の核となる七戸高校の魅力化を向上のため「七戸公営柏葉塾」の運営

◎政策分野4 地域住民が輝き、地域全体が活気にあふれる地域づくりを行う

・政策分野4-1 持続可能な地域作りの推進

デジタルの力を活用した地域づくりを推進

公共交通はICカード等の導入の検討

地域での脱炭素

《KPIの訂正あり》 七戸町公式LINE登録者数の目標値を2,200人から2,700人に上方修正。

令和6年度よりLINEをもっと使いやすいものにして、町民の皆様から、例えば町内の道路の破損個所の報告や通報についてLINEを活用して町民ができるような仕組みですとか、町で実施するイベント、参加の受付をLINEを使ってやる、「スマート市役所」といったようなイメージで活用したいため、高めに設定変更した

・政策分野4-2 健康づくりとスポーツ活動の推進

人材不足が懸念される保健、福祉、介護および医療分野で、関係機関と連携を図りながら、人材の育成、確保、有効活用を図る

DXを活用した業務の効率化

会長：事務局より次期戦略案について変更点を中心に説明をしてもらいましたが委員の皆様、ご質問等ございませんか？

天間林商工会事務局専門員：6ページの(2)ですけれども、中央部分の「安心安全な七戸産農産物のブランドイメージの定着を図るため、品質向上の推進とともに新たな付加価値の創出をするとともに」と「ともに」を二つ使っているのですがいかがですか。

事務局：文言修正させていただきます。

天間林商工会事務局専門員：スマート農林業の導入やデータの活用など、作業の効率化や労働負担の軽減を目指した取り組みを推進しますのは、推進というのは具体的にどのような推進の仕方を考えておりますか。

事務局：具体的にどのような政策というところではお示しはできないんですけれども、取り組んでいかなければならない分野であるため、各農協さんと協議をしながら取り組める分野、少しずつでも改善していきたいという意味で、推進という表現にさせていただき取りました。

七戸商工会事務局長：政策分野1-1で、このテーマの中で農家等の取得向上の推進ということで、農家等ということで林業も入れてはいると思うんですけれども、明確な形で林業を出すのであれば、政策分野1-1のタイトルを「農業林業等の所得向上の推進」とやるとかあるいは「第一次産業の所得向上の推進」というようにしてはいかがかと思えます。

次に、8ページのところなんですけれども、政策分野1-3でございます。ここの中の現状と課題の下から2行目ですが、「従業員の高齢化、後継者不足が懸念され、早期の労働力確保が喫緊の課題となっている」とうたっています。これは、商工会の中でも特に力入れてるんですけども、事業承継という言葉があるんですね。高齢化して後継者が居なくなってくる。ですから、もしここでこういうふうな現状の課題があるのであれば、個別的な政策の中で、例えば、「事業承継に関する総合的な支援」というふうであればなお一層いいのかなと思っておりました。

事務局：検討の上、修正させていただきます。

会長：他にいかがでしょう。そうすると、一旦、NTTさんからお話をいただいた後に、委員の皆さんから、具体的な内容の先進事例や、あるいは町に対して提言等々についてご意見いただきたいと思えます。

NTT東日本東日本八戸営業担当部長：NTT東日本です。ICTを活用した事例をご紹介させていただきます。

- 1-1 農業等の取得向上の推進 及び 1-2 新規就農者の増加
  - センシングによるデータ収集
  - ICTを活用した遠隔営農
  - AIによる画像分析
  - ドローンによる農薬散布、作付け面積の確認、収穫時期の確認等
- 1-3 安定した雇用の確保と安心して働ける環境の整備
  - リモートワーク環境の実現ということで顔認証で入退室管理
- 1-4 道の駅を拠点とした地域産業の振興

スマートストアみたいな無人店舗の設置

電圧冷蔵庫による長期保存で特産品を現地で食べられるような形で保管する

LINEで受け答えにチャットボットの活用

2-1 居住環境の整備と移住定住の推進 及び 2-2 関係人口の拡大

魅力ある映像でPR

ドローンやメタバースの活用

3-3 教育環境の充実による地域ぐるみの子育て支援

ディスプレイを使ったプレゼン

3Dプリンターの活用

DXプログラムの実施ということで、技術者を学校に派遣して人材育成

4-1 持続可能な地域づくり

EV車の導入

オンデマンド交通の導入

4-2 健康づくりとスポーツ活動の推進

e スポーツによるフレイル予防

遠隔でのスポーツ支援

以上のような取り組みが考えられると思います。

会長：両農協を代表して。七戸町はトマトが基幹作物で夏秋トマトは特に主力です。

令和5年については高温障害というようなことで、ハウスの温度管理あるいは冠水というようなところでですね、芳しくなかったというようなところで、それを自動化したらいいんじゃないかというような生産者からの話は、現実的にはありました。そこにはコスト等がかかりますので、もしそれをやるとすると、全農家を対象とすると難しい。高齢化により労働力が不足しているというようなことで農協祭りでパワーアシストスーツについての実演会等もやりました。

試した方の評判は良いのだけれど、導入するとなると130万ぐらいする。農業やられてる年齢層でいくともう65以上の方が4割、5割以上いるし、全員が必要というものでもない。対象者を選んでいかないといけないというところがあるのかなというふうな感じをしています。

自動操舵ですとかそういったものについては、耕作面積が大きいと有効な仕組みだと思うんですけど、特に旧七戸についてはそんなに面積を大きくやってる人がいないという中でいくと、なかなか導入できないというところが課題だというふうな感じで認識をしています。

まず、できるところからとなればトマトのハウス等での自動灌水あるいは自動換気は出来るのかなという印象を感じてました。

ゆうき青森農協天間林営農センター長：天間林地区に関しましてはやはり水稻がメインということで、ここ何年かは小規模農家の離農がかなり進んでいる。高齢化が進んでいることで、スマート

農業ということになれば、後継者が若い人でないとやはりどうしても、取り組むことができない。やはり、新規就農者や後継者の育成にどんどん力を入れていっていかなければならないのかなと思ってます。また、本農協では営農情報をFAXで送信しているのですが携帯上で見れるようなシステムを作ろうとしています。

七戸町天間林商工会事務局専門員：農業分野に対しての意見になりますが、私も農家をやっています。ゆうき青森農協天間林営農センター長が言ったとおり、離農者が多い。小規模農家の離農者が結構高くなっている。たまたま私の隣で、親から継いで45歳前後の方が大きく拡大して水稻をやっています。その方は、スマートフォンで水管理をしており、省力化につながっている。これは素晴らしいな実感したところですね。

上北地域県民局地域連携部地域支援チームリーダー：県のDXの取り組みを紹介します。県の基本計画も来年度から5ヶ年計画として変更の手続きをしている。県のDXの推進プランというのも併せて作ってところです。県知事からは、デジタル化が目的じゃないよ、デジタル入れて何か変わらないといけないよという話をされている。仕事の仕方自体を見直ささいというようなことは言われております。県内の市町村はLINEを導入してるんですか、利活用の仕方について、皆さんが苦勞してるという事を聞いている。それぞれ工夫しながら何とか登録者数を増やそうとしてる。機械入れるというよりは、仕事の仕方がこう変わるというところまで踏み込んで考えないと、多分、機械を導入して終わりっていうふうになると、ちょっとなかなかつらいものがある。我々もそういうのを意識しながら考えています。

青森県立七戸高等学校長：七戸公営柏葉塾を言葉として明記していただきありがとうございます。継続的に応援していただきたいなというふうに思います。学校のことをお話ししたいと思います。が、定員割れしてはおるんですが、この地域の中では健闘してる方です。実は、そもそもこの地域は、各校を平均すれば入学試験の倍率が1倍の地域だったんですけど、今は、私立の方も授業料が減免されるということもあり、私立高校を進学先として志望する子供も増えてきています。本校の進学実績や就職実績はこの地域の同程度の高校と比較して劣っていないため、しっかりと地域に情報を発信していきたい。我々がやってる総合学科を正しく地域の人とか小中学校の先生に理解してもらおうという課題があります。

来年度の学校経営方針を出しました。その中の一つにコミュニティスクールを明記しました。学校運営協議会を開いて、地域の人たちも入れて、学校経営に関わってもらい、それから地域の人にも勉強してもらいたい、ということでそれを明記しました。

小中高だけじゃなくて幼稚園や保育園との連携ももっと進めていきたいということを経営方針の中に入れましたので、今後も七戸高校に御協力いただければと思います。

みちのく銀行七戸支店長：安定した雇用のところで、事業承継という話が出たんですけど、七戸町だけではなく、全県的にも後継者がいないのは非常に困っている状況です。息子さんとか後継者が居るとそのまま事業所を引き継いだりできるんですけど、いない方も結構いらっしゃってどうしようかって悩んでる方もおります。自分1人だと店を閉めたりというのもできるんですけども、従業員さんを抱えたところとかはそうはいかなくて、誰か引き継いでくれないかという相談とか受けていることも結構ありますので、そういうところで銀行の方にでもお手伝いできればいいなと思いました。

青森銀行七戸中央支店長：空き家活用の推進というところがありました。空き家の問題っていうのは、七戸町は人が減って行って、子供が引き継いでも空き家のままで放置されると、価値が経年劣化で落ちてくる。そこで銀行として、我々の銀行の事例で恐縮なんですけど、空き家利活用ローンがございまして、空き家を賃貸するために改築する費用や、単純に解体する費用、他にも駐車場の造成にかかる費用等を対象とする、担保ローンというのをやっております。空き家の利活用で困ってる方がいらっしゃれば、銀行の紹介をしていただければ、お力になれると思います。

野辺地公共職業安定所長：安定した雇用の確保、働ける環境の整備というところになりますけど、町のウェブサイトの就業・起業のページに記事が掲載されていないようでした。雇用対策協議会では地元の企業のPRをするためのガイドブックを作成したりしているので、例えば、七戸町の企業の紹介ページや相談会の日程等について、町ウェブサイトで広く公開する仕組みにしていればいいのかと思います。

デーリー東北新聞社十和田総局七戸分局：思いついたことを、ざくばらんにお話したいんですが、まず、関係人口の拡大であるとか、道の駅を中心とした地域産業の振興であるとか、公共交通機関にICカードを導入するであるとかっていうことが書かれたと思うんですけど、観光にも力を入れるというのであれば、公共交通機関だけではなくて、少なくとも観光客が訪れそうな場所である道の駅の中の店舗であるとか、ローズカントリーの直売店であるとか、そういったところは電子決済をなるべく広く使えるようになると、観光に来た人にとっては助かるのかなというのが一つ意見としてあります。本当は、町の中の飲食店であるとかでも使えれば助かるんですけども、そこまではさすがに普段使う人がなかなか少ないと導入するのただではないので、難しいかと思うんですけど、少なくとも観光に関わるような部分ではそういうところができるのかなと思ったりします。

次に、NTTさんの方の資料でも、高齢者の方にスポーツを推進するというのがあったと思うんですが、先月に七戸高校さんの学習成果発表会にお邪魔したときに、まさしくそれを題材に発表している学生さんがいらっしゃいまして、自分のおばあさんが、eスポーツとかゲームをやったら、それによって認知機能の向上等が見られたっていうようなことも、彼はおっしゃってしまし

た。これは高齢化が進む中で、ゲームを通じて、それこそ高校生であるとかもっと若い世代の子たちも多分とつきやすいと思うので、そこでまた交流が生まれれば、活性化にも繋がっていくのかなと思って聞いておりました。

最後に、SNSの活用をすごくおっしゃっておられたと思うんですが、SNSの活用は、確かにその町外に向けて情報発信をする上ではかなり大切なことであると思うんですけども、先日、六戸町長選挙の取材に行っておりましたときに、関係者の方がおっしゃってたのが、SNS上に投稿したんだけど、町の人ほとんど見てない、いいね、の数とか見ても町外の方は付けるんだけど、町内の方はほとんど見てなくて、町内に対してはSNSはあまり有効ではないということが、わかったみたいなことをおっしゃっていらしたので、町外に向けた情報発信というのにSNSは有効かもしれないけれど、町内の方にも情報をお届けしたいってなったときに、やはりSNSの使い方というのは考えなければならないと。また、SNSは意外と自分が知りたい情報しか見ないので、発信者側は自分たちは広く情報を届けているつもりでも、すごく絞った人にしか届いていないということが往々にしてあるかなと思うので、そこに関しては情報を投げっぱなしにするんじゃなくて、どの程度の方がその情報を拾ってるかなっていうところに目を配っていかないと、あまり効果がないことになってしまうのかなと思いました。

会長：ありがとうございます。最後に、改めて全体を通して何か質問、ご意見ありましたらお願いします。よろしいですか。

そうすると事務局の方からは、本審議会で次期総合戦略案を審議するのは今回で最後と聞いておりましたが、今後のスケジュールを教えてくださいたいです。

事務局：先ほど、本文中で疑義のある箇所を指摘いただきましたので、それを修正した上で、今の予定では、2月1日から2月16日までの間で、パブリックコメントということで、広く町民の方等から意見をいただきたいと思いました。それをもって、最終的に次期戦略の策定としたいと考えています。

次に、各委員の皆様から、貴重な意見をたくさんいただきましたので、これについては、今度、庁内の推進委員会という組織がございますので、その推進委員会等を通じて検討の材料ということで進めていきたいというふうに考えております。

会長：はいそれではですね以上をもちまして、七戸町総合計画審議会を終了いたします。

本当にありがとうございました。